（特非）岐阜環境カウンセラー協議会　会報

Vol.34 号　2025 年 7 月 20 日発行

この美しい自然を守ることが、人類を救う!!

前号のこの欄で、「この数年で、今冬はことのほか寒く」と、記しましたが、春以降の気象も例年に増して、冬から夏の傾向が強まり、「夏の避暑地北海道」が、一気に夏本番、全国一の暑さを記録するなど、「観測が始まって以来・・・」の異常事態が続いています。

しかし、選挙戦真っ只中、「気候変動問題」は、さして、話題にならず、世の中の関心の薄さが気になるばかりです。こんな時こそ、われわれの出番ですが、如何にアプローチすべきでしょうか？

今号も、少々、遅れ気味ですが、会報 Vol.34 号をお届けします。

※記事の一部に正鵠性を欠く内容がありましたので、修正、再発行いたしました。2025 年 8 月 20 日

目　次･概　要　　**ページ**

● **巻頭言**　（特非）　岐阜環境カウンセラー協議会　理事長　梶田　弘一　**2**

第三極の台頭を考える!!

● **第 21 回通常総会（2025 年度）を開催しました**　**3**

「環境カウンセラーの役割、どうあるべきか」について、今年度、年間を通じて検証すべき・・・

● **環境行政のこれから～持続可能な社会づくりを地域から～**

第 21 回通常総会（2025 年度）記念講演　**4**

環境省中部地方環境事務所の縄野です。環境行政の現在、これからの方向性について・・・

● **会員訪問**　**6**

今回は、当協議会会員となって日が浅いながら、永年、市民活動に関わり、行政の施策を支援し・・・

● **編集後記**　**8**

● 巻頭言

（特非）　岐阜環境カウンセラー協議会　理事長　梶田　弘一

第三極の台頭を考える!!

今号発行日 7 月 20 日は、参議院選挙投開票日です。昨年の衆議院選挙同様、与党の過半数割れが予測されています。とりわけ、今まで議席が無いに等しい政党の躍進が、話題となっています。従来の野党第 1 党立憲民主党、与党とは、一線を画した別の「第三極」の台頭が囁かれています。

これら新興勢力台頭の背景に「SNS」の存在、活用が話題となっていますが、このことは、今回の選挙を通じて、「気候変動問題」への関心不足露呈への、われわれ自身の課題とも共通するのではないでしょうか。

この数年来、日本の特徴春夏秋冬の四季が消え、冬夏の二季化した気候変動を体験しているにも関わらず、この選挙では争点どころか、話題の一端にもなり得ていません。このことは急浮上した「外国人問題」、「反グローバリズム」と対局にあるのではと感じます。つまり、永年、私たちが行ってきた「広報・啓発」の方法に齟齬が無かっただろうかということです。

自戒を込め、敢えて、申し上げれば、理解を求める余り、共感を得ていなかったと感じています。従って、「環境問題の大切さはわかるけれど・・・」で、留まってしまい、「そうだ、何とかしなければ、何とかしましょう」と、共鳴される状況が作り得ていませんでした。

この共鳴される状況づくりに大きく影響したと喧伝されているのが、X、YouTube など、「SNS」活用の巧拙と訴える内容の「単純化＝ワンフレーズ」と云ったことです。これを我々の活動に照らしてみたらどうなるのでしょうか。

私たち自身に SNS の知識、技量はあるのでしょうか？知識、技量のある人を活用できているのでしょうか？　そして、内容面では、「環境」に拘泥しすぎていないだろうか？

今一度、環境対策がなぜ必要かを自問自答し、生活に密着したエネルギー、食料自給率向上などの問題をわかりやすく共有する努力を尽くすべきと考えます。一度、考えてみましょう。

●　第 21 回通常総会（2025 年度）を開催しました

2025 年 6 月 7 日（土）13 時 30 分より、例年どおり、岐阜市生涯学習センターハートフルスクエア G 研修室 30 において、第 21 回通常総会（2025 年度）を、実出席 15 名、委任状 6 名の 21 名参加の下、開催しました。そして、今回、新体制後、初めて外部講師をお招きして「記念講演会」も開催しました。

冒頭、理事長あいさつでは、総会成立のお礼とともに、今回の総会は特に懸案事項はないものの、昨年、全国連合会への再加入の過程で明らかになった「環境カウンセラーの役割、どうあるべきか」について、今年度、年間を通じて検証すべきこと、今年度も 3 名の新入会員があった一方、4 名の退会者もあり、会員の新陳代謝が進んでいることを受け止め、新入会員の招へいに努める必要があることなどが示されました。

議事は、渡辺理事の成立宣言、議長候補を会場から募ったが立候補者無く司会者指名により、餌取理事が選任され、議長から議事録署名人に議長の外、田中　耕、渡辺浩一両会員が指名を経て、第 1 号議案 2024 年度事業報告、第 2 号議案 2025 年度事業計画が審議され、提案どおり承認されました。

審議経過は、以下のとおりです。

第 1 号議案 2024 年度事業報告の件は、関連する 2024 年度事業報告書（案）、2024 年度活動計算書（案）、財務諸表の注記（2024 年度）、2024 年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表（案）2024 年度財産目録（案）を一括、理事長から説明し、続いて、監査報告は松浦良明監事が、急用で欠席のため、渡辺浩一理事が監査報告書を代読し、第 1 号議案全体の質問を促したが、特に質問はなく、全員の拍手で原案通り承認されました。

続いて、第 2 号議案も、2025 年度事業計画書（案）、2025 年度特定非営利活動予算書（案）をまとめて説明され、その説明の中で、2025 年度は今まで継続して受けてきた助成金が一区切りとなる一方、事業の展開が活動団体（（一社）フォーレサンノクラ）主体に移ることから、当協議会としては、可能な範囲で支援すること、新たな助成金獲得の方策を探ることが付言され、当議案についても、特に質疑なく、全員の拍手により原案どおり承認されました。

尚、冒頭の理事長あいさつでも、触れられた「環境カウンセラーのあり方」に関わる内政的な「環境カウンセラーの広場」活用、会報の適時発行堅持、双方向の情報活発になるよう今年度留意したい旨付言されました。

報告事項として、会員の状況が会員名簿により示され、今後、会員増に努める旨、宣言され、本日の議事は、すべて終了し、議長は今後の協力を要請し、15 時丁度、降壇しました。

その後、記念講演を経て、簡単な懇親会を場所を変えて開催し、本日のすべてを終了しました。

総会風景

● 環境行政のこれから～持続可能な社会づくりを地域から～

第 21 回通常総会（2025 年度）記念講演

環境省　中部地方環境事務所　環境対策課

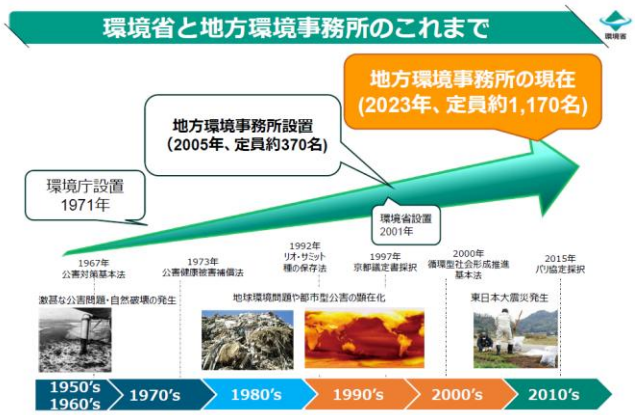
課長補佐　縄野　正衡　さま

縄野　正衡　さま

環境省中部地方環境事務所の縄野です。名古屋では 3 年目を迎えていますが、過去、震災復興に 8 年間関わってきました。本日は、環境行政の現在というか、これからの方向性についてお話ししたいと思います。

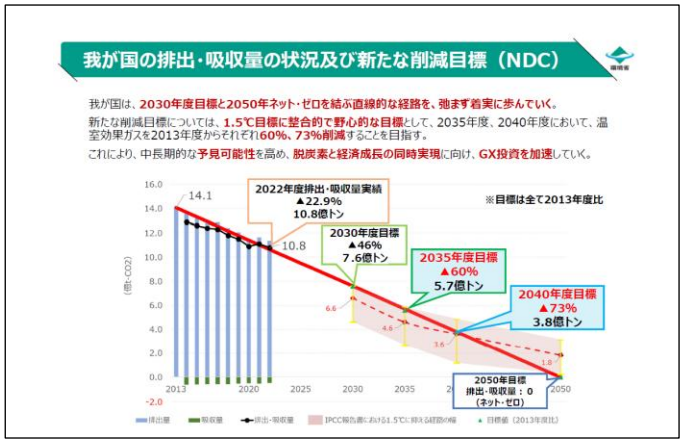
まず、環境省の前身は環境庁で、その発足は 1971 年、公害対策が急務で、現在の地球環境問題とは、趣きが異なっていました。環境省となったのが 2001 年、2005 年には地方環境事務所が設置されましたが、自然公園を管轄する事務所から発展したものです。

環境基本計画は、環境省の計画でなく国としての計画です。環境省は国の計画に従い、環境行政を担っているところです。現在は、昨年、策定された「第六次環境基本計画」により、施策が進められています。地域循環共生圏の考え方についても、第五次から引き継がれています。トレンドについて、少し、変化があり、環境一辺倒でなく社会・経済を考え、経済を旨く回していくことが盛り込まれています。そして、量的拡大、集約化、均一化の旧来システムから全国一律で無い、「地域ごとのやり方で持続可能であること」へ、シフトした内容となっています。



現在の地球環境問題では、国民全員が関係者であります。簡単におさらいすると明らかに日本の平均気温は上昇していますね。その気温の上昇が大気、海洋の諸要素に影響を及ぼし、極端な大雨、降雨日数増加、降雪量等の気候変動を引き起こしていますが、その原因が温室効果ガスであることは言を待ちません。そして、その温室効果ガス発生が人間活動によることは、国際的にも共通の認識となっていますね。

わが国では、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指し、種々施策を展開しています。

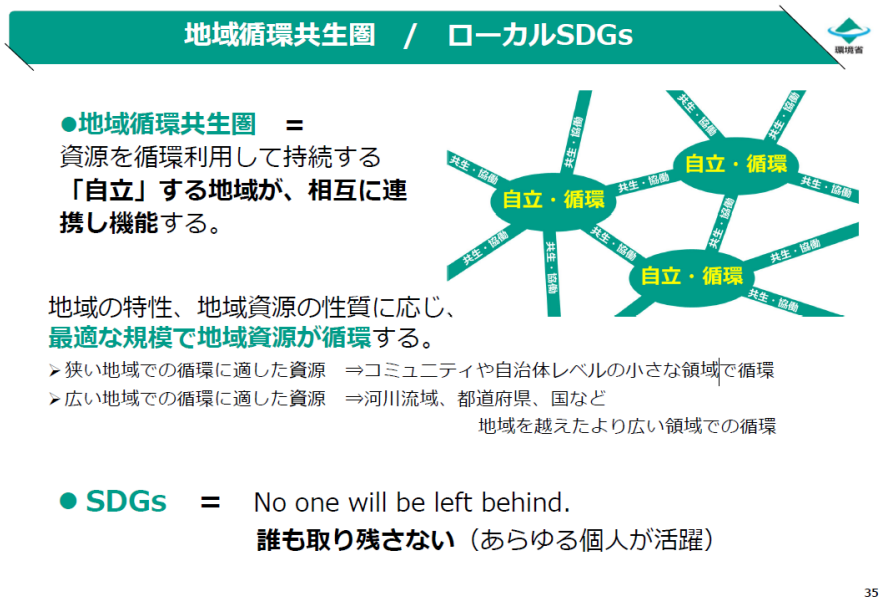


脱炭素先行地域、重点対策加速化事業に取り組む自治体を支援することなど、各地域に見合う取り組みが展開されています。岐阜県内では、脱炭素先行地域に高山市、重点対策加速化事業に岐阜県、美濃加茂市、山県市です。加えて、「ゼロカーボンシティ宣言」をした自治体としては岐阜県をはじめ 24 自治体が、それぞれ取り組んでいます。

「デコ活」ということば、ご存じのことと思いますが、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動として、国民の行動変容・ライフスタイル転換を後押しするもので、従来の普及啓発型から自治体・企業・団体等と連携して社会実装型の取り組みを重視しています。環境省のウエブページに企業の商品やサービスの情報も掲載しております。その他、環境省では、気候変動への適応策として、「熱中症対策」にも取り組んでいます。温暖化を止めるだけでなく、温暖化にどう適応するかについても対応しています。

最後になりましたが、「地域循環共生圏の創造」について、少し、触れておきます。自立・分散型の持続可能な社会を目指すということは、地域によってそれぞれ特徴が異なる、課題も異なる点を解決しつつ、地域の特徴を創っていき地域の自活を進めるものです。その上で、その地域で不足するものを他地域と連携しようとするものです。地域循環共生圏づくりのキーワードは、「地域プラットフォームの構築」と「ローカルSDGs事業の創出」と考えています。地域課題の解決、地域資源の状況から目指すビジョンを関係者間で共有することが重要で、そのビジョンから課題解決の方向性を決め、新たな事業（ローカルSDGs事業）を、創出しつづける体制構築が特徴です。

佐賀県の鹿島市の事例を紹介します。「ラムサール条約の湿地を守る」という取り組みから、干潟に流れ込む上流の耕作放棄地からの土砂防ぐため、「棚田として復活」、「酒米とする」また、湿地の海域部で養殖している「ノリ」を捕食するカモ対策のLED照明を観光化するなど課題を解決しつつ、事業創出につなげる事例です。



最後に地域循環共生圏Webサイトを環境省ホームページに掲載していますので、参考にしてください。また、中部地方環境事務所では、3団体（愛知、福井、長野）の支援を行っています。この支援は３年計画で、今、２年目ですが、その後のことは、はっきりしていません。

このような話をすると、「具体的に何をすれば、良いのか？」と云われますが、まず、課題を見つけることは地域の役割で、その後、解決策の知恵を集めることのお手伝いはできますので、相談してください。

少し、時間が超過しましたが、これで終わります。ご清聴ありがとうございました。

聴聴講風景

● 会員訪問

今回は、当協議会会員となって日が浅いながら、永年、市民活動に関わり、行政の施策を支援し、地域の広範な環境保全活動に関わり、環境カウンセラーの鑑となるべき活動を展開されている浅野かつ代さんを紹介します。

インタビューは、活動拠点である「輪之内町エコドーム」内で、行いましたが、日常活動中でもあり、担当ボランティアの方々、リサイクル材を持ち込まれる町民の方などに対応の傍ら受け答えしていただきました。

なまえ　浅野 かつ代 さん 76歳　市民部門 2017年度登録

岐阜県輪之内町在住

平成11年 4月 婦人会の役員仲間と生ごみ分別処理推進活動開始
平成13年 4月 輪之内町廃棄物減量等推進審議会委員
平成14年 3月 ピープルズコミュニティをNPO法人化、事務局担当
平成17年 4月 岐阜県地球温暖化防止活動推進員に就任
平成21年 2月 省エネルギー普及指導員資格取得
平成24年 8月 家庭の省エネエキスパート資格取得
平成26年 4月 岐阜県環境審議会委員就任
平成28年 4月 岐阜県環境教育推進員就任
平成29年 4月 環境カウンセラー（市民部門）登録
令和 6年 4月 ぎふ地球環境塾代表理事就任
現　在　NPO法人ピープルズコミュニティ副理事長兼事務局長

このたびは、当協議会に入会していただき、ありがとうございます。以前より、岐阜県地球温暖化防止活動推進員として、私は存じ上げていましたが、改めて、当協議会会員に広く、紹介させてください。

輪之内町在住の浅野かつ代です。こちらこそ、よろしく、お願いします。

私の活動のキッカケは、平成 11 年、西濃環境整備組合の一般廃棄物処理施設を見学する機会があり、ごみ収集車から吐き出される「生ごみ」を見てショックを受け、「輪之内から生まれた生ごみは輪之内の土に返そう」をスローガンに生ごみ分別処理推進活動を婦人会役員仲間とはじめたことです。

施設の見学で、地区の課題に気がつくだけでも感心しますが、町民に対して説明し、納得してもらうことは、非常に難しいことだと思います。みなさんの賛同を得るまで、どれくらいの時間がかかりましたか？

最初は役員たちが集まってどんなふうに説明をしたら理解してもらえるか、自分たちで何回も処理実践体験を行いながら説明会に臨みました。しかし、会場ごとに想定外の質問もあり、生ごみ分別方法を試行錯誤する毎日で、キッチリ住民に理解してもらうにはトータルで 2 年ぐらいは、かかりました。

説明会の具体的進め方を、もう少し、詳しく話していただけますか？

説明会は、各地区を回って行いましたが、最初は、人集めが大変な苦労でした。ラジオ体操、地区の寄り合いなど、人の集まっているところへお邪魔し、説明させていただきました。そして、手ごたえのあった地区の熱心な参加者にお願いし、モデル地区の説明会ちらし配布、モデル地区の半数以上が協力、参加してもらえるまで、説明会を何回も繰り返し、開催しました。

輪之内の土に返すとした処理の方は、順調に進んだのですか？

そうなんです。ここからが、また、大変な経験をすることになったのです。最初は、参加所帯数も少なく、自分の畑に生ごみを埋めることができましたが、私たちの説明を理解され、畑の無い世帯の生ごみを私たちボランティアで処理せざるを得なくなり、一気に経費がかかるようになって、当初の役員数が減る事態になりました。

それでも、ボカシで生ごみを発酵処理したり、貸し農園で畑の無い世帯へ貸し出したり、工夫をしているうちに協力世帯も多くなり、ボランティア活動では支えきれなくなるほどの参加者数になってきました。

参加者数が増えるということは、良いこととは云え、それまでの活動で支えきれないことでは、本末転倒ですね。何か良い解決策は見つかりましたか？

行政との委託契約が結べるよう NPO 法人を取得しました。法人格を取得したことで、経営の行き詰まり解決策、外部との交渉ごとなど岐阜県の支援センターによる支援も受けられるようになりました。

そこから、ボランティア活動時代と違う世界がひらけ、地域住民に対する義務、責任にも自覚させられました。

生ごみ分別処理参加協力所帯は、現在、輪之内町全域ですか？

輪之内町全体で 3,500 世帯、全域で活動しています。生ごみ分別参加世帯は、半数弱の 1,500 世帯です。

今まで、輪之内町のごみ処理について、お話しいただきましたが、そのほかにも地域での「環境教育」に力を入れて見えると伺いましたが・・・

私が代表理事をつとめる「ぎふ地球環境塾」は、西濃地域の子供たちを対象とし、身近な環境問題から地球規模の問題まで幅広い内容の問題を地元住民、企業、学校、行政の協力を得て進めています。

これは、平成 14 年開講で、23 年間続いていますが、地域の課題を解決するため、西濃地域の将来の環境保全リーダーを育成することを目的として、今後も続けていきたいと思っています。

丁寧にお話しいただき、ありがとうございました。まだまだ、ご活躍の数々が、お有りのようですが、又の機会にお伺いしたいと思います。最後に、「無の状態から、同調者を集めた極意、ポイント」は、何だったと思いますか？

みなさんが汚い、キツイと思われている生ごみにかかわる活動からの出発でしたが、この活動は私と相性が良かったのか気の合う仲間にも恵まれ、毎日楽しく過ごしたことです。

そして、現在の環境教育やエコクッキング教室などにつながり、これまで、25 年の活動が幅広くなっていった多くの人たちとの出会い、人間関係がいちばんのポイントだったと思います。

本日は、ご多用中、長時間お付き合いいただき、ありがとうございました。

ありがとうございました。

ベルオブウォーキング

テッセン・原種

エトワールバイオレット

白　馬

ダッチェスオブエジンバラ

● 編集後記

トランプ関税による混乱、解決の糸口すら見えないウクライナ、イスラエル紛争、政治状況の混乱など、人間社会の所業の悪さが天に届いたかのような、猛暑日が連続する気象状況と併せ、この先が見通せない混沌とした日々が続いています。

特に、涼しさの象徴「北海道」が、連日、国内最高気温を記録することなど、信じ難い事態ですが、このことは、数十年前から専門家から警告されていたにもかかわらず、その警告の根拠と現在の現象を関連付ける報道も皆無、今夏の参議院選でも「気候変動」は、話題にもなっておりません。

環境問題に関わる「環境カウンセラー」として、この状況を真剣に反省し、どのようにしたら解決の糸口がつかめるかを考え、行動しなければなりません。

担当：梶田　弘一

発行：特定非営利活動法人　岐阜環境カウンセラー協議会
〒507-0001　岐阜県多治見市小名田町小滝 5 番地の 301（梶田・宅）
TEL/FAX　0572-88-8037
E-mail：gifu-ec@ob.aitai.ne.jp
URL：http://www.gifu-ec.jp
発行責任者：梶田　弘一